

佐賀県立博物館報 №.50

佐賀市内丁目15番23号 TEL.0952(24)3947

付 佐賀県立博物館10年のあゆみ



輪子地著色聖体秘蹟図指物

この指物は、寛永14年(1637)島原の乱で盟主におかれた天草四郎時貞(1621~1638)が陣中旗として使用したものとわれ、翌15年2月28日、原城攻撃で一掃のした佐賀藩士鍋島大膳により分捕られたものである。この事実を認めた「奥村権丞書状」大膳の孫、鍋島正左衛門にあてた「指物所持許可状」及び「原城攻略図」とともに天草時貞関係資料として、昭和39年国の重要文化財に指定された。

これは中央に大聖杯、上に聖体聖餅、左右に合掌礼拝している有翼の天使が描かれ、上に古体ポルトガル語で「LOWVAD·SEIA·OS·ACTISSIM·SACRAMENTO」(いとも尊き聖体の秘蹟ほめ尊まれ給え)と記されている。

旗地は卍字くつしに菊花を配した紋輪子の美麗な布地で、聖杯は淡黄色、天使の翼は緑色や代赭色、口唇は朱色、著衣は淡黄色に茶褐色で陰影を示し、また聖杯の暗部や顔面は線描で陰影をつけている。

筆者は一説では初期洋画家、山田右衛門作が原城内で、あるいはセミナリオで描いたものといわれるが、確証がない。

一部にみられる血痕や矢弾の跡には当時の信仰の深さや戦の激しさがしのばれる。これまで、信仰の対象として敬虔に保存されてきた。熊本県本渡市立天草切支庁館に保管中であるが佐賀県立博物館主催の「九州の文化展」に10月12日まで特別展示中である。

目次

陣中旗	1
開催要項	2
出品作品	3~7
佐賀県立博物館10周年を迎えて	8
博物館のあゆみ	8
企画展10年のあゆみ	9~11
行事のお知らせ	12

「九州の文化展」開催要項

○展示名称 九州の文化展

○主 旨 九州は日本の西南に位置し、大陸と最も近く原始古代から近世に至るまで、諸外国の文化流入の窓口として、また対外折衝の要地として大きな役割を果たし、日本文化の形成と発展に重要な位置をしめると共に、独自の地方文化を生んできた。

佐賀県立博物館は、今年10月開館10周年を迎えるにあたり九州各県のご協力を得、九州各博物館・美術館等に所蔵されている美術・工芸品を中心に展示し、日本文化の発展に果たした九州の役割とその文化を紹介する。

○主 催 佐賀県立博物館
佐賀県教育委員会

○後 援 九州各県教育委員会
九州博物館協議会

○会 場 佐賀県立博物館
佐賀市城内1丁目15-23
TEL 0952-24-3947

○会 期 昭和55年10月4日(土)～11月3日(月)
(但し休館10月6・13・20・27日の各月曜日)

○観 覧 料 大人 400円 (300円)
大学・高校生 200円 (150円)
中学・小学生 100円 (70円)
()内は団体料金 団体は20名以上

○講 演 会 日時 10月12日(日) 午後1時30分より3時まで

演題 美術工芸に見る門戸九州の文化
—長崎を中心にして—

講師 長崎市立博物館長 越中哲也氏

○図 録 「美術工芸にみる門戸九州の文化」
総ページ数 約210・カラー8頁
全出品資料の写真及び解説・美術工芸に関する論考など
頒布価 1,600円

展示概要

第1部 「門戸・その九州」

1. 大陸文化の移入
2. 大宰府と鴻臚館
3. 蒙古襲来・倭寇
4. 鉄砲・キリスト教の伝来
5. 文禄・慶長の役
6. 平戸・出島
7. 朝鮮通信使
8. 黄檗宗の伝来
9. 洋学・科学技術の導入
10. 長崎警備・薩英戦争

第2部 「美術・工芸にみる九州の文化」

1. 諸来の仏教美術
・仏像・仏画・写経・仏具
2. 九州の南画
・僧鉄翁・木下逸雲・三浦栢門
・田能村竹田・高橋草坪・帆足杏雨 など
3. 九州の染と織
・天草更紗・鍋島更紗・鍋島段通
・博多織など
4. 九州の陶磁とガラス
・唐津、上野、高取、竜門司、堅野、苗代川、八代、小代などの陶器
・伊万里、網田、平佐などの磁器
・長崎、佐賀、薩摩などのガラス

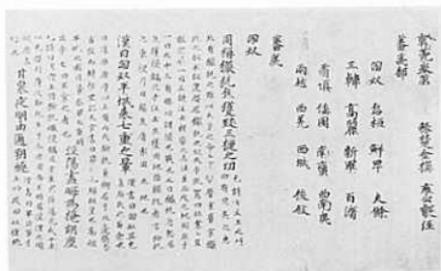
第3部 「琉球の文化」

・絵画・陶芸・漆器・染織 など

第1部「門戸・その九州」



朝鮮系無文土器壺
土生遺跡出土



国宝 翰 苑



羽川藤永 朝鮮人来朝図



広渡湖秀筆 長崎日蘭貿易図



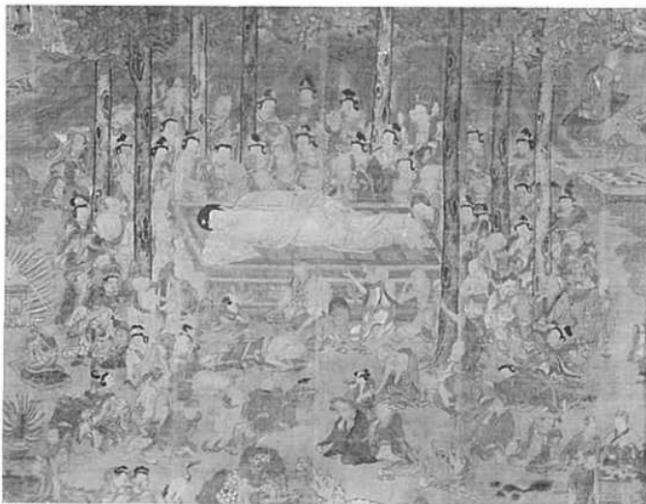
伝荒木如元筆 外科手術図



スーピング号(観光船)模型

第2部
「美術工芸にみる
九州の文化」

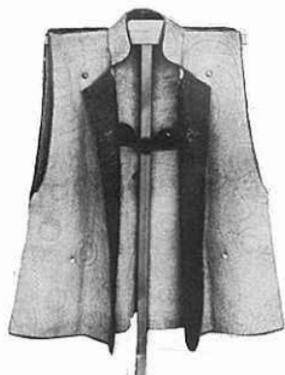
▶重文 仏涅槃図(部分) 李朝時代
長崎県 最教寺蔵



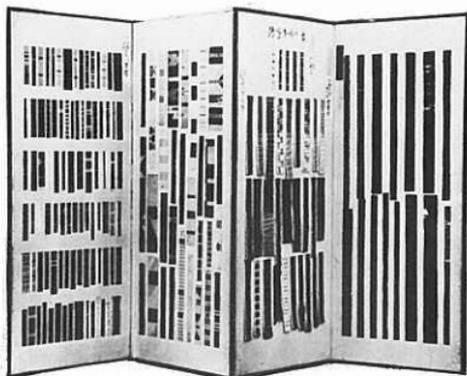
◀董法山水図 竹田筆

▶銅造 菩薩坐像 高麗時代 福岡県





華文刺縫障羽織



博多織 古裂屏風



江戸時代 三彩釉亀甲酒器 (龍門司)



絵唐津飛鳥文片口



薩摩切子藍色脚付坏



長崎ガラス絵ガラス小箱

第3部「琉球の文化」



御殿型厨子壺



梵鐘「旧円覚寺殿中鐘」



紅型型紙



朱漆鳳凰巴紋七宝繫沈金曲玉入

昨年11月、佐賀藩の神のお留型は胡麻柄紋ではないかという話を持ちこまれて以来、正直のところ江戸小紋の1つに「鍋島小紋」があることを知って、調査してみたところ6例の鍋島小紋の神と3点の型紙を確認した。神6例の中1点は丸に剣花菱の家紋がついている。他は鍋島家の惣業の家紋で、藩主鍋島直正着用又は拝領といわれるのである。

鍋島小紋は胡麻の実を断面にした図柄（胡麻殻）に7曜を配したもので、素朴ながらも気品のある図柄である。東京小宮康孝氏（重要無形文化財江戸小紋技術保持者）から本年5月当館に寄贈された鍋島小紋の型紙は縦25cm横49.8cmの洗染めで、縦15.4cm横44.8cmの影幅をもっている。7曜の径は2.5ミリ（1点0.5ミリ）の錐彫りで、胡麻殻文は径5ミリの道具彫りである。小紋の型彫りで、錐彫りと道具彫りを同時に彫りこむことは両方の技量が必要で、相当の技術を必要とするという。型紙は三重県鈴鹿市の白子、寺家で古くから専売的に作られており、今日、型紙販売業者39、型彫師400、型地紙の製造業者15が数えられている。この型紙もその1つであろう。

小宮氏寄贈の型紙は、戦後能衣裳の染めに一時使用したという。また「鍋島小紋」という小紋名は、代々呼び継がれてきた名称で「胡麻柄小紋」とは呼ばなかったと

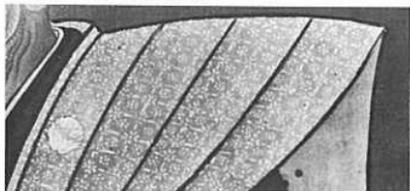
いう。小紋の名称は大部分は文様、図柄名がその名称となっているが、大名家の家名がそのまま小紋名になっているのは「鍋島小紋」だけである。

小紋はもともと小さな模様を柄を生地一面に単色で、糊防染めにより片面を型染めにしたもので、古くは鎧の革所や家地にみられる。江戸時代武士の公服となった裃に使用されて以来一般にも流行した。将軍家や各大名は専用の小紋を定め、他家にはその使用を禁じたという。これを「お留型」と呼んでいる。

胡麻柄紋様の小紋がいつ頃から出はじめ鍋島家のお留型として使用されたかは詳らかでない。佐賀藩で現存する裃の中で一番古いと思われるものは、斎藤家（佐賀市西田代町、斎藤用之助氏）に伝わる佐賀藩士斎藤用之助父子の裃である。鍋島直茂逝去（天知4年1618）に際し追復の際着用したといわれる裃である。この裃の小紋は「錐彫り菱」で、あと1つは「錐彫り七宝二星」の紋様である。また「鍋島小紋」の提唱者、片倉順子氏の紹介で田中家（佐賀市内1丁目、田中一雄氏）に伝わる佐賀藩士田中正兵衛（1754～1828）の肖像画（絹本着色 116.5×47.5）を見せてもらった。これはまさしく鍋島家惣業紋入りの鍋島小紋の裃着用の画像である。背に「田中正兵衛小伝」を左から右に13行325字で記している。その中程に「江戸邸鳴礼服婦商家居敷幾……」とある。これからすると、功によって藩主から鍋島小紋の裃を拝領し、その記念として描かせたものであろう。右下に「竹齋榮顯謹写」と金字の落款部分がある。「榮顯」は「西肥道芳」によると文化文政頃の佐賀の画家とされているが、これまで当人の絵の存在は不詳であった。田中正兵衛と榮顯が同時代であることから、この肖像画は田中正兵衛が生存していた時に実際描かせたものといえよう。

次にこれらの裃は何処で誂えられたかは詳らかでない。「山本神右衛門常朝年譜」の寛文元年（五藏1663）の項に「松亀（常朝の幼名）中刺りいたし上下着用し候……利左衛門より夏冬ノ衣裳並びに上下、丸ノ内葛ノ紋付、上方へ誂え下し候て毎年給い候、十四歳にて小々性二召し成され、御扶持方下され候迄、十年ノ間、毎歳右の通り給い候事……」とある。この頃の佐賀藩士の裃は、京都で作られていたのであろうか。しかし地方文化の発達した江戸時代後半では、当然佐賀城下の染め師によって染色されたと思われるが、その辺の事情はまだ解っていない。

鍋島小紋の発生、由来、染色等、それに佐賀藩での裃の需要と供給等については皆目判っていない。今後の研究課題である。（学芸課 尾形善郎）



鍋島小紋着用の左肩部分

佐賀県立博物館 10周年を迎えて

昭和45年10月に佐賀県立博物館が開館してから、早くも10周年を迎えました。

ご承知のように佐賀県立博物館は、昭和35年4月以来博物館として活動してまいりました佐賀県文化館を発展・充実させ、県民の文化向上に資するため、明治百年記念事業として城内公園のほぼ中央、旧佐賀大学教育学部跡に建設されたものであります。当時、博物館等の施設としては、九州地区では長崎県立美術館に次いで建設された博物館でありまして、県民文化の振興の一翼を担う新博物館の誕生は、わが佐賀県教育文化史上特筆すべきことであつたと思います。

以来、本館は佐賀県の自然や歴史、或いは文化に係る県民の研究と理解に資するための総合的な郷土博物館として、自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗に関する資料を常時展示するほか、広く日本の歴史と文化に関する特別企画展等もおこない、独自の調査研究を進めるとともに県内諸地域で巡回展等も実施し、教育活動の場を広めることに努めてまいりました。

この間、各方面からの絶大なご支援を受け、暖かいご指導、ご協力を賜りまして、昨年7月には百万人の観覧者を数え、ここにつつがなく10周年の記念すべき年を迎えましたことは誠に喜ばしい限りであります。

このうえは、博物館の果たすべき役割の重要性にいっそうの思いをいたし、職員一同大いに自粛自戒、なお一層の創意と工夫をこらして、博物館活動の内容の充実に努め、県民皆様のご期待にこたえなければならぬと存じておりますので、今後ともよろしくご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐賀県立博物館長 永原正隆

博物館のあゆみ

昭和45年4月1日

佐賀県立博物館設置条例公布。
佐賀県立博物館協議会条例公布。
佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。

昭和45年7月1日

佐賀県立博物館竣工。
佐賀県立博物館設置条例施行。
博物館開設準備事務局廃止。
博物館職員の発令、館長以下18名。
佐賀県立博物館協議会条例施行。

昭和45年7月16日

佐賀県立博物館協議会委員を任命。

昭和45年10月14日

佐賀県立博物館開館記念式挙行。

昭和47年3月4日

鉄器滅亡樹脂含浸装置を研究室に設置。

昭和47年12月20日

城内公園の一部（西側駐車場、東側噴水）が佐賀土木事務所から博物館に管理委任される。

昭和48年10月10日

茶室「清恵庵」を市村清氏の遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。茶室落成式。

昭和50年9月20日

古賀忠雄氏作「岬の男」（ブロンズ）前庭に据付完成。

昭和51年9月18日

皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。

昭和51年10月22日

天皇陛下、皇后陛下「若植国体芸術展」ご観覧のためご来館。

昭和51年10月29日

高松宮殿下、同妃殿下「若植国体芸術展」ご観覧のためご来館。

昭和52年12月12日

佐賀藩跡造鉄製「カノン砲」（復元）玄関前据付完了。

昭和53年5月4日

常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。

昭和53年11月5日

花室「清恵庵」開室5周年記念合同茶会開催。出席者約1,500名。

昭和54年7月19日

入館者総数100万名に達する。

昭和55年4月23日

古賀忠雄遺作（232点）遺族より寄贈。

企画展10年のあゆみ

昭和45年度

開館記念特別展 桃山江戸美術名作展
(10月15日～11月3日)
観覧者数 22,764名
第20回佐賀県美術展 (11月16日～11月29日)
観覧者数 18,515名
幕末維新佐賀先哲資料展 (1月15日～2月15日)
化石展 (2月20日～3月25日)
観覧者数 12,232人

昭和46年度

文明の十字路美術展—シルクロードの生活と民芸—
(4月25日～5月9日)
観覧者数 17,404名
野鳥展 (5月20日～5月30日)
観覧者数 3,187名
有明海・玄海漁撈習俗展 (6月29日～7月15日)
坂の下縄文遺跡展 (7月20日～8月31日)
理科作品展佐賀市支部展 (9月19日～9月22日)
観覧者数 1,596名
理科作品展佐賀県展 (9月24日～9月30日)
観覧者数 6,225名
日本古美術展 (9月11日～10月3日)
観覧者数 12,850名
画聖鉄斎名作展 (10月7日～10月22日)
観覧者数 3,176名
第21回佐賀県美術展 (10月24日～11月8日)
観覧者数 14,898名
第21回佐賀県高等学校美術展 (11月10日～11月14日)
観覧者数 2,300名
明治・大正・昭和名作美術展 (11月16日～11月28日)
観覧者数 7,655名
日本美術院展 (1月21日～1月30日)
観覧者数 7,454名
佐賀県勤労者美術展 (2月5日～2月11日)
観覧者数 1,260名

昭和47年度

第40回独立美術協会展 (5月18日～5月28日)
観覧者数 8,588名
野鳥展 (6月4日～6月25日)
有明海・玄海漁撈具展 (7月4日～7月25日)
土生・久蘇遺跡資料展 (8月4日～8月25日)
山口亮一画業展 (9月6日～9月15日)
観覧者数 3,834名
理科作品展佐賀支部展 (9月23日～9月26日)
観覧者数 2,031名
理科作品展佐賀県展 (9月28日～10月4日)

観覧者数 4,464名
蒼海・梧竹展 (10月10日～11月7日)
観覧者数 5,986名
ジェームズ・アンソール展 (11月14日～12月3日)
観覧者数 39,358名
第22回佐賀県美術展 (11月18日～11月26日)
観覧者数 14,939名
学制発布100年記念・教育資料展
(12月2日～昭和48年1月18日)
観覧者数 4,949名
佐賀県高等学校美術展 (12月5日～12月10日)
観覧者数 543名
日本古地図絵図展 (1月25日～2月13日)
観覧者数 8,358名

昭和48年度

野鳥展 (5月10日～6月5日)
佐賀美術協会創立60年記念展 (6月15日～6月24日)
観覧者数 4,364名
郷土の先覚者書画展 (7月14日～8月10日)
第4回日展 (8月25日～9月24日)
観覧者数 67,145名
九州沖縄工芸秀作展 (9月29日～10月5日)
観覧者数 1,589名
理科作品展佐賀市支部展 (9月29日～10月1日)
観覧者数 1,733名
理科作品展佐賀県展 (10月3日～10月6日)
観覧者数 3,474名
裝飾古墳壁画展 (10月13日～11月4日)
観覧者数 6,274名
第23回佐賀県美術展 (11月17日～11月25日)
観覧者数 10,275名
第23回佐賀県高等学校美術展 (11月28日～12月2日)
観覧者数 766名
日本近代文学展 (12月1日～12月23日)
観覧者数 6,153名
出版物 「日本近代文学展」図録
マルケ展 (12月9日～12月19日)
観覧者数 10,089名
新遺跡資料展 (1月20日～2月8日)
石本秀雄展 (2月16日～2月24日)
観覧者数 4,453名
鍋島藩窯展 (3月5日～3月24日)

昭和49年度

佐賀県の漁撈と水鳥展 (5月10日～6月9日)
古伊万里展 (6月23日～7月7日)
観覧者数 11,149名
松本弘二遺作展 (7月20日～8月4日)

NHK放送のあゆみ展（8月11日～8月20日）

観覧者数 20,353名

東光会展（9月7日～9月16日）

観覧者数 5,741名

理科作品展佐賀市部展（9月14日～9月18日）

理科作品展佐賀県展（9月20日～9月25日）

百武・久米・岡田三人展（9月21日～10月23日）

観覧者数 13,625名

第24回佐賀県美術展（11月2日～11月10日）

観覧者数 11,316名

松方コレクション展（11月16日～12月1日）

観覧者数 50,379名

第15回佐賀県学童美術展（12月5日～12月8日）

観覧者数 1,551名

第24回佐賀県高等学校美術展（12月18日～12月22日）

観覧者数 380名

第18回佐賀大学美術科総合展（12月10日～12月15日）

観覧者数 727名

佐賀の自然、風土と植物写真展（1月12日～1月19日）

観覧者数 955名

新道跡資料展（1月25日～2月23日）

肥前名刀展（3月2日～3月23日）

観覧者数 7,865名

昭和50年度

佐賀美術協会展（5月21日～5月25日）

化石と進化展（6月1日～6月22日）

観覧者数 30,964名

ドレスデン、古伊万里名品展（7月2日～8月6日）

観覧者数 31,406名

勤労者美術展（8月30日～9月7日）

観覧者数 1,370名

理科作品展佐賀市支部展（9月13日～9月17日）

観覧者数 2,369名

理科作品展佐賀県展（9月19日～9月25日）

観覧者数 5,280名

九州沖縄グラフィックデザイン展（9月26日～10月1日）

観覧者数 1,232名

肥前の仏教美術展（10月10日～11月9日）

観覧者数 10,140名

第25回佐賀県美術展（11月22日～11月30日）

観覧者数 12,912名

第16回佐賀県学童美術展（12月5日～12月8日）

観覧者数 1,922名

第25回佐賀県高等学校美術展（12月16日～12月21日）

観覧者数 1,376名

第16回佐賀県高等学校書道展（1月22日～1月25日）

観覧者数 411名

書初展（2月5日～2月8日）

観覧者数 1,468名

筒井茂雄展（2月14日～2月18日）

観覧者数 1,461名

佐賀大学卒業制作展（2月22日～2月28日）

観覧者数 1,078名

昭和51年度

三根霞郷展（3月6日～4月7日）

観覧者数 3,923名

日本伝統工芸秀作展（5月23日～6月6日）

観覧者数 6,025名

佐賀美術協会展（6月16日～6月20日）

佐賀県書作家協会展（7月15日～7月20日）

観覧者数 1,445名

佐賀県七ヶ書道展覧会（7月22日～7月27日）

観覧者数 1,165名

柿右衛門名品展（8月29日～9月26日）

観覧者数 15,995名

若楠国体芸術展（10月10日～11月8日）

観覧者数 17,069名

佐賀県美術展（11月20日～11月28日）

観覧者数 9,937名

佐賀県高等学校美術展（12月1日～12月5日）

観覧者数 1,205名

佐賀県学童美術展（12月10日～12月14日）

観覧者数 1,370名

教職員美術展（12月18日～12月23日）

観覧者数 551名

九州グラフィックデザイン展（1月5日～1月9日）

観覧者数 775名

九州の原始文様展（1月15日～1月24日）

観覧者数 3,570名

肥前の近世絵画展（3月5日～3月30日）

観覧者数 3,505名

城秀男退官記念展（3月6日～3月10日）

観覧者数 1,616名

土肥春嶽退官記念展（3月12日～3月16日）

観覧者数 2,060名

佐賀大学卒業制作展（3月18日～3月21日）

観覧者数 681名

勤労者美術展（3月25日～3月29日）

観覧者数 986名

昭和52年度

納富進道作展（4月16日～5月8日）

観覧者数 5,908名

第16回日本現代工芸美術展（5月21日～6月5日）

観覧者数 5,262名

佐賀美術協会展（6月16日～6月21日）

観覧者数 2,451名
池田幸太郎遺作展 (7月9日～7月31日)
観覧者数 2,754名
七夕展 (8月20日～8月26日)
観覧者数 3,679名
楳竹展 (8月20日～9月11日)
観覧者数 10,091名
第2回佐賀県書作家協会展 (8月28日～9月4日)
観覧者数 3,355名
第27回佐賀市児童生徒理科作品展
(9月6日～9月9日)

観覧者数 1,648名
第27回佐賀県児童生徒理科作品展
(9月11日～9月14日)

観覧者数 5,413名
鍋島更紗・段通展 (9月17日～10月16日)
観覧者数 6,488名
第27回佐賀県美術展 (10月29日～11月6日)
観覧者数 11,826名
第27回佐賀大学美術科総合展 (11月9日～11月12日)
観覧者数 956名
九州グラフィックデザイン展 (11月14日～11月20日)
観覧者数 869名
勤労者美術展 (11月23日～11月28日)
観覧者数 1,064名
第27回佐賀県高等学校美術展 (12月1日～12月6日)
観覧者数 694名
第18回佐賀県学童美術展 (12月10日～12月15日)
観覧者数 3,527名
第5回教職員美術展 (12月18日～12月23日)
観覧者数 582名

佐賀県高等学校書道展 (1月14日～1月20日)
観覧者数 1,369名
書初展 (1月22日～1月28日)
観覧者数 2,094名
二科展 (2月7日～2月19日)
観覧者数 25,897名
古代のくらしのなかの器展 (2月26日～3月26日)
観覧者数 3,978名

出版物「古代のくらしのなかの器展」図録
佐賀大学卒業制作展 (3月18日～3月21日)
観覧者数 885名
東光会佐賀支部緑光会展 (4月1日～4月4日)
観覧者数 678名

昭和53年度

日展 (4月1日～4月23日)
観覧者数 38,945名
科学者レオナルド・ダ・ビンチ展

(5月3日～5月24日)

観覧者数 7,223名
佐賀美術協会展 (6月15日～6月25日)
観覧者数 2,673名
第10回独立C S展 (7月22日～7月27日)
観覧者数 527名
七夕書道展 (8月1日～8月6日)
観覧者数 1,786名
第3回佐賀県書作家協会展 (8月8日～8月13日)
観覧者数 759名
九州現代工芸佐賀展 (8月19日～8月27日)
観覧者数 1,095名
第28回佐賀市児童生徒理科作品展
(9月14日～9月18日)

観覧者数 1,599名
第28回佐賀県児童生徒理科作品展
(9月19日～9月25日)

観覧者数 3,900名
古唐津展 (10月7日～11月5日)
観覧者数 11,163名
出版物「古唐津展」図録
第28回佐賀県美術展 (11月18日～11月26日)
観覧者数 10,702名
佐賀県高等学校書道展 (11月30日～12月5日)
観覧者数 809名
佐賀県学童美術展 (12月8日～12月12日)
観覧者数 2,953名
佐賀県高等学校美術展 (12月15日～12月20日)
観覧者数 749名
九州グラフィックデザイン展 (1月21日～1月25日)
観覧者数 707名

書初展 (1月27日～1月31日)
観覧者数 1,598名
勤労者美術展 (2月4日～2月8日)
観覧者数 902名
佐賀大学卒業制作展 (2月20日～2月23日)
観覧者数 607名
地下の遺宝展 (3月3日～3月25日)
観覧者数 3,933名

昭和54年度

緑光会展・親子スケッチ会作品展
(4月1日～4月8日)
観覧者数 741名
スペイン美術展・須磨コレクション
(4月28日～5月20日)

観覧者数 4,056名
彫塑展「九州アート・ナウ展」(5月27日～6月7日)
観覧者数 961名

佐賀美術協会展（6月14日～6月24日）
 観覧者数 3,461名
 二科会佐賀支部展（6月27日～7月1日）
 観覧者数 1,056名
 岡田三郎助展（7月7日～7月29日）
 観覧者数 30,309名
 七夕展（8月4日～8月8日）
 観覧者数 1,677名
 書作家協会展（8月10日～8月14日）
 観覧者数 646名
 文化庁・移動美術展（8月21日～9月9日）
 観覧者数 3,191名
 理科作品展（佐賀支部展）（9月14日～9月18日）
 観覧者数 1,608名
 理科作品展（佐賀県本展）（9月20日～9月26日）
 観覧者数 3,192名
 古代九州の遺宝展（鏡・玉・剣）10月6日～11月4日）
 観覧者数 5,417名

佐賀県美術展（11月17日～11月25日）
 観覧者数 13,114名
 佐賀県高校芸術展（11月28日～12月4日）
 観覧者数 1,176名
 佐賀県学童美術展（12月8日～12月12日）
 観覧者数 1,727名
 グラフィック・デザイン展（1月10日～1月16日）
 観覧者数 585名
 書き初め展（1月19日～1月23日）
 観覧者数 1,150名
 佐賀県勤労者美術展（1月27日～2月1日）
 観覧者数 670名
 刀と歴史展（2月8日～2月17日）
 観覧者数 6,418名
 佐賀大学卒業制作展（2月21日～2月24日）
 観覧者数 880名
 玄界のくじら捕り展（3月1日～3月23日）
 観覧者数 2,161名

行事のお知らせ

常 設 展		(原則として月曜及び祝日の翌日休館)	
佐賀県の歴史と文化展	4月1日(水)～5月11日(日) 6月15日(日)～9月25日(水) 56年 2月11日(水)～3月31日(水)	大 人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展観する。

企 画 展						(原則として月曜休館、月曜祝日の場合は火曜休館)	
展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金	展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金		
九州の文化展	10月4日(土)～ 11月3日(日)	大 人 400(300) 大・高生 200(150) 中・小生 100(70)	書 初 展	1月17日(土)～ 1月21日(水)	無 料		
佐賀県美術展	11月15日(土)～ 11月24日(日)	大 人 200(150) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30)	佐賀県勤労者美術展	1月31日(土)～ 2月5日(水)	無 料		
佐賀県高等学校芸術祭書道・美術部門展	11月28日(金)～ 12月4日(水)	無 料	九州グラフィックデザイン展	2月10日(水)～ 2月15日(日)	無 料		
佐賀県学童美術展	12月11日(水)～ 12月16日(水)	無 料	佐賀大学卒業制作展	2月21日(土)～ 2月25日(水)	無 料		

各展示会は都合により変更されることがあります。

○当館発行の図録案内

「美術工芸にみる門戸九州の文化」
 開館10周年記念「九州の文化展」に伴って刊行したもので、カラー8頁を含め210頁。
 全出品資料の写真及び解説。九州の美術工芸に関する各分野の権威者の論考を掲載している。

博 物 館 報	第 50 号
発行年月日	昭 和 55 年 10 月 1 日
編 集	永 原 正 隆
発 行	佐賀市内1丁目15～23
	佐賀県立博物館
印 刷	佐賀印刷社